

ひめ やま おお まほろ姫とブッキラ山の大テング

なかがわちひろ作 かいせいしゃ
偕成社

タヌキに育て^{そだ}られたまほろは、ふつうの人間^{にんげん}とはちよつとちがいます。葉^はっぱを頭^{あたま}にのせて、じゅもんをつぶやき宙^{ちゆう}がえり。するとタヌキみたいに、思^{おも}い浮かべたものにはけることができます。つかう葉^はっぱは、ブッキラ山^{やま}のてっぺんにある神社^{じんじや}のカシワからとった特別な^{とくべつ}なもの。いつもは、おこづかいとして、きめられた枚^{まい}数^{すう}しかもらえません。

もっと葉^はっぱがほしいまほろは、きょうだいのように育て^{そだ}った子^こダヌキの茶々丸^{ちやちやまる}といっしょに、ブッキラ山^{やま}へのぼってみることにしました。

